

その他の被災地支援活動

■ 思いで戻し隊・みえ

被災し、誰のものか分からなくなってしまった思い出の品々…これらを三重でお預かりし、洗浄してお返ししようと始まった【思いで戻し隊・みえ】のプロジェクトは、写真家浅田政志氏と津市立橋南中学校生徒が取り組んだことが新聞報道されたこともあり、「何かできることはないか」と思いが募る方々から多くの共感を呼びました。個人の大切な品々のため、安全管理の徹底や活動者自身の衛生管理などができる団体に実施主体として担っていただくことで、県内各所でこのプロジェクトが実施されました。

赤ちゃんの成長記録や結婚式の記念写真、旅のスナップ、時には鞆や大漁旗を手に取り、持ち主の無事を祈りながらの洗浄作業。1枚でも多くお返すために、富士フィルム株式会社のご協力によりレクチャーを開催し、作業マニュアルや仕分けマニュアルなども作成しました。また、三重県カメラ商組合をはじめ、県内外からたくさんのポケットアルバムをご寄贈いただきました。

5月14日から始まった【思いで戻し隊・みえ】は、多くの方々のご支援とご参加のもと、2012年1月27日に活動を終了し、お預かりした思い出の品々は若手県山田町（山田町社協復興支え愛センター）へお届けが完了しました。



三重県内での実施主体

19 団体

活動者数（のべ）

約 2800 人

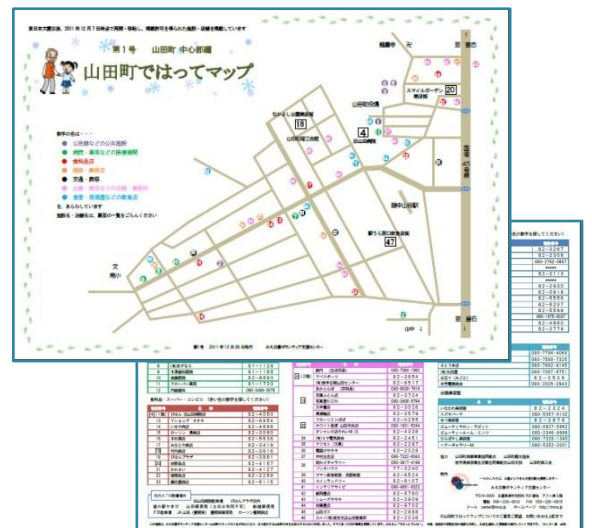
寄贈されたポケットアルバム

10000 冊以上

■ 山田町ではってマップ

「山田町ではってマップ」は、震災で被害を受けた施設や店舗が、ほかの場所に移転したり、仮設商店街に入居して営業を再開していることを受け、山田町内の病院や金融機関・商店など、生活に必要な店や施設の位置が分かる「生活地図」が必要と考え、現地スタッフである佐藤・外館が中心となって作成しています。地図が外出のきっかけになればとの思いから、「ではって（山田町の方言で「でかける、でかけよう」）マップ」と名付けました。

山田町中心部の地図と情報を掲載した第1号を、2011年12月末に発行しました。今後、ほかの地域や仮設住宅マップについても作成を予定しています。お寄せいただいたご意見やご要望を反映し、住民の皆さまに使っていただける「生活地図」を目指しています。



【山田町の皆さんへ】山田町は、私の生まれ故郷の風景が重なる部分があり、自分の「ふるさと」のように感じていました。震災前とは違うかもしれませんが、山田町の皆様が、それぞれの「ふるさと」に帰れる日が来ることを願っています。（第30便 庄司論史さん）